

授業科目 病態運動学実習

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	理学
大西 秀明、高木 昭輝 ほか助手 2名		開講時期	後 期	必修・選択	必 修
		単位数	1 単位	時間数	3 0 時間
＜一般目標：G I O＞					
理学療法学が対象とする症候群や疾患が呈する機能障害に由来する動きを病態運動学という概念から考え、 理学療法的治療学としての機能障害回復学として理学療法のアプローチを考えることができる。					
＜行動目標：S B O＞					
1 一般的な病的異常性について、その機序を説明することができる。。					
2 一般的な病的異常性への理学療法的アプローチを学生同士で行うことができる。					
3 一般的な病的異常性について、効果的な代償的手段を学生同士で基本的なことを行うことができる。					
4 基礎的な病態運動について例を挙げて理学療法アプローチを列挙することができる。。					
5 病態運動学を含め、広く社会参加、QOLの向上などを含む広範囲かつ柔軟な理学療法的対応を挙げ、それらを説明することができる。					
回 数	授業計画又は学習の主題			SBO	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション				講義
2	身体の状態に由来する病態運動を学生同士で体験する。 1			1, 2, 3	学生同士で体験する。
3	身体の状態に由来する病態運動を学生同士で体験する。 2			1, 2, 3	学生同士で体験する。
4	身体の状態に由来する病態運動を学生同士で体験する。 3			1, 2, 3	学生同士で体験する。
5	末梢神経障害に由来する病態運動を学生同士で体験する。 2			1, 3	学生同士で体験する。
6	末梢神経障害に由来する病態運動を学生同士で体験する。 2			1, 3	学生同士で体験する。
7	ミオパチーの病態運動を学生同士で体験する。 1			1, 4	学生同士で体験する。
8	ミオパチーの病態運動を学生同士で体験する。 2			1, 4	学生同士で体験する。
9	中枢神経系障害の病態運動を学生同士で体験する。 1			1, 5	学生同士で体験する。
10	中枢神経系障害の病態運動を学生同士で体験する。 2			1, 5	学生同士で体験する。
11	中枢神経系障害の病態運動を学生同士で体験する。 3			1, 5	学生同士で体験する。
12	高次脳機能障害を学生同士で体験する。 1			1, 5, 6	学生同士で体験する。
13	高次脳機能障害を学生同士で体験する。 2			1, 5, 6	学生同士で体験する。
14	まとめ				まとめを協議する。
15	期末試験				総括的試験
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書		神経学的理学療法（問題点と解決法のポイント）：Dusan Edward著、真野行生監訳： 医歯薬出版：2001年：4000円＋税			
参考書		神経系のリハビリテーション 多重感覚治療法：Shereen D. Farber著、平山義人、鷺田孝保監訳：協同医書：1987年：2800円＋税 疼痛のとりえかた 理学療法MOOK 3 鈴木重行、黒川幸雄編集：三輪書店：1999年：3800円＋税（予定）			
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
期末試験、授業貢献度、発表などを総合的に評価する。		授業に対して受身にならないでほしいと思います。			